

# 石狩川の外輪船

外輪船とは、船体中央部の両側にある水車を回して航行する船のことです。石狩川では「神威丸」「安心丸」「上川丸」「空知丸」の4隻が活躍しました。

明治17年(1884)年秋、石狩一樺戸(現：月形町)間に、石狩川で初めての外輪船、神威丸と安心丸が就航しました。この2隻は、樺戸集治監(監獄)に囚人と生活物資を運ぶ常備船として運航されました。

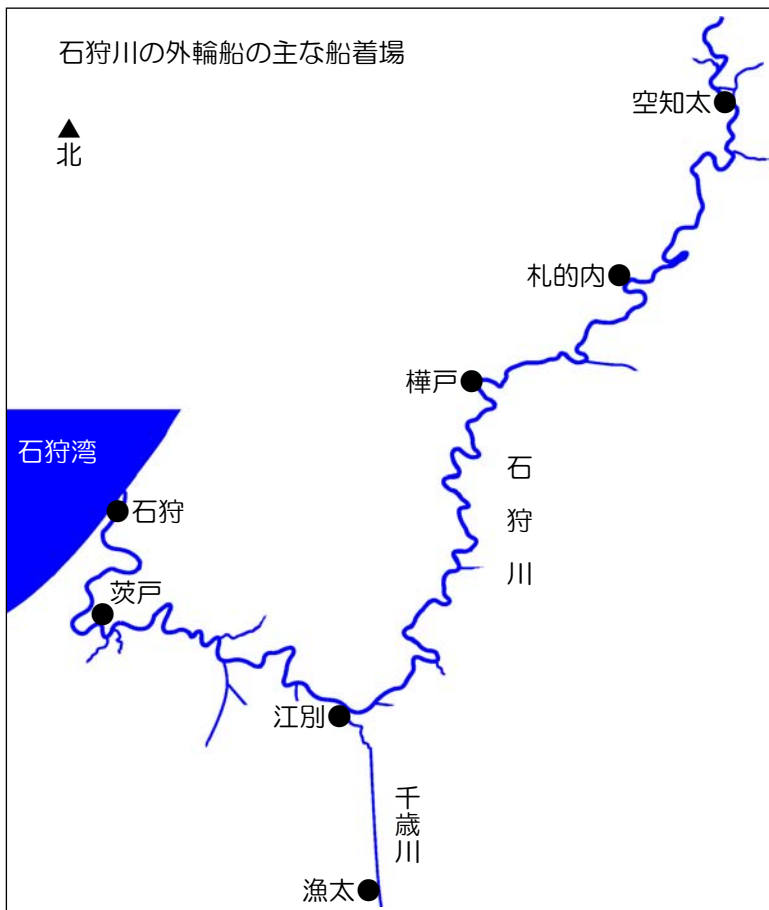
明治24(1891)年には、江別一樺戸間の航路が空知太(現：砂川市)まで延長され、江別一漁太(現：恵庭市)間の新航路も開かれ、神威丸、上川丸、空知丸の3隻が石狩川を航行しました。

外輪船の運営は数々の民間会社が担っていましたが、浅瀬や流木などの障害物による座礁や、濁水・洪水による欠航、利用者の減少などで、その経営状態は厳しいものでした。そのため明治35(1902)年、石狩一江別間、江別一月形間、月形一札の内(現：浦臼町)間の3航路が、北海道庁により「命令航路」に指定されました。命令航路とは、国が補助金を交付するかわりに、運航者、運航区間や寄港地、運航回数、使用船舶を指定する航路のことです。上川丸と空知丸の2隻が運航されました。当時の乗客運賃は、

石狩一江別間と江別・月形間で上等=75銭、並等=50銭、月形一札の内間で上等=45銭、並等30銭でした(『殖民公報』明治36年)。

しかし明治43(1910)年、利用者の減少により月形一札の内間が廃止され、その後も陸路(道路や鉄道)の整備に伴って、水運は衰退していきました。そして昭和10(1935)年、札沼線(現：JR学園都市線)の開通により、全航路が廃止となりました。

(工藤友紀)



(1) 石狩市(1997)石狩町誌/下. 石狩市.

(2) 石狩川振興財団(2003)石狩川舟運史. 北海道開発局石狩川開発建設部.